

令和5年度 文教警察委員会 県外所管事務調査の概要

◆調査日程 令和5年9月4日（月）～6日（水）

◆調査先・調査内容

①大阪市立天王寺中学校（夜間学級）（大阪府大阪市）

調査内容：夜間学級について

当該夜間学級は、義務教育を修了できなかった方や諸事情により中学校で十分に学べなかった方のための学びの場として1969年（昭和44）年6月に開設された、大阪市内で最も歴史の古い学校である。なお、平成28年に義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（教育機会確保法）の制定により、近年では不登校などの理由により中学校へ通うことができなかった生徒や、本国で義務教育を修了せずに日本で生活を始めることになった外国籍の方の学び直しの場としての役割も担っている。そのため、当該夜間学級においては在籍生徒の約半分が外国籍であり、また年代層も20代が最も多い状況となっている。

なお、大阪市教育委員会ではかねてから小中学校の統廃合計画を進めており、大阪市内にある夜間中学（学級）4校のうち、阿倍野区にある文の里中学校及び天王寺中学校は令和5年度末で廃止され、その在校生は、令和6年4月に新設される不登校特例校の心和中学校に併設される夜間学級に転籍する予定であった。しかしながら、天王寺中学校については在校生や卒業生からの存続の声や、市議会からの在校生への配慮に関する要望などにより、当該学校の統廃合計画が示された令和3年度の入校生が在籍できる最長期間である令和8年度までの廃止延長が決定されている。文の里中学校についても在校生などからの存続の声があがっているが、当初の計画どおり今年度で廃止となっている。

本県では、現時点において夜間学校は設置されていないが、平成29年から夜間中学校等の在り方について検討しており、これまでにアンケートやインターネットを活用したニーズ調査を実施している。また、今年度は夜間中学の模擬教室を開催し、参加者への聞き取り調査を行っている。

今回の調査では、夜間学級の具体的な支援内容等を把握するため、学校の概要やカリキュラムのほか、在校生の年齢構成等の状況などについて話を伺うとともに、校内及び生徒の授業風景を見学した。

<主な質疑等>

- ・夜間学級のニーズ変化について
- ・留学生に対する日本語指導の必要性について
- ・ネパール留学生の増加理由について
- ・夜間学級担当教員の勤務時間について



②兵庫県警察本部（兵庫県神戸市）

調査内容：自転車運転者講習制度及び大規模警備について

自転車運転者講習制度は、平成27年6月1日の改正道路交通法の施行により創設されたものであり、自転車の交通ルール遵守を徹底するため、自転車の運転に関し一定の違反行為（危険行為）を3年以内に2回以上行った者に対して、都道府県公安委員会が講習の受講を命ずるものである。

兵庫県警察本部においては、制度創設から積極的な取締りの実施などにより、毎年度全国で実施される講習件数の約半分が兵庫県で実施されている。なお、本年7月1日から新たに改正道路交通法が施行され、それにより特定小型原動機付自転車（電動キックボード）運転者講習が義務付けられ、自転車とあわせて電動キックボードの特定の違反者においても、条件に該当する場合は講習を行うこととなった。

本県では、これまでに自転車運転者講習の対象者がいないため、講習は実施されていないが、今般の電動キックボード運転違反者に対する講習の義務付けにより、本県においても今後の講習の実施が想定される。

また、令和6年に開催される第43回全国豊かな海づくり大会については本県で開催される予定であるが、令和4年11月に第41回全国豊かな海づくり大会が兵庫県明石市をメイン会場として開催されており、兵庫県警察本部では、天皇皇后両陛下をはじめとした要人警護や交通規制等の警備にあたっている。

今回の調査では、本県の今後の取組の参考とするため、自転車運転者講習の実施状況や取組の工夫などのほか、大規模警備実施の取組内容について話を伺った。

<主な質疑等>

- ・自転車運転者講習の実施と事故抑止の関係性について
- ・違反者の登録情報の保存期間について
- ・ヘルメット着用率について
- ・ドローン対策について
- ・銃撃事件等を踏まえた警備の対応について



③兵庫県立神出学園（兵庫県神戸市）

調査内容：フリースクールの運営について

当該学園は、平成6年10月に全国初の公立のフリースクール（不登校の子どもに対し学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行う施設）として開講し、今年で30年を迎えている。当該学園の設立の計画が始まったのは平成元年であり、当時は高校を中退する生徒が増加し、その多くが就職や専門学校に入り直していたが、1割ほどが何もしていないことが問題視されていた。そこで、家に引きこもり、何もしていない若者が再び元気を取り戻し、自分づくりと生き方探しをする場として当該学園が設立された。学園では、不登校、ひきこもりの若者が豊かな自然環境の中で、仲間と寮での共同生活や多彩な体験プログラムを通して自信と元気を取り戻し、自分にあった進路を見出すことを目指している。

本県では、令和3年度の文部科学省の調査によると、県内の小中学校及び高等学校において約3,200人の児童生徒が何らかの理由により不登校であり、全ての公立学校をカバーするよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置するとともにICTを活用した家庭学習支援など様々な支援に取り組んでいる。また、不登校児童生徒それぞれの主体性を尊重するフリースクールへの支援について検討しており、現在、県内には24のフリースクールが民間で運営されている。

今回の調査では、今後のフリースクールの支援の在り方などの参考とするため、学園の概要やプログラム、在校生の進路などの話を伺うとともに、施設の見学を行った。

<主な質疑等>

- ・運営にかかる予算の確保について
- ・卒業後の進路について
- ・インターネット等のゲーム依存者の学園における生活状況について
- ・ユネスコスクールの指定に関する取組について



④広島県立広島叡智学園（広島県豊田郡大崎上島町）

調査内容：国際バカロレアプログラム等について

当該学園は、広島県の離島である大崎上島町において平成31年4月に開校した全寮制の併設型中高一貫教育校である。また、当該学園は国際バカロレア機構から、国際バカロレアを実施する環境及び体制が整っていると認定された学校であり、令和2年に11歳から16歳までを対象とした中等教育プログラム（MYP）、令和3年には16歳から19歳までを対象としたディプロマプログラム（DP）の認定を受けている。生徒は入学後、中学3年生までにMYPを、高校1年生の1月からはDPに沿った学習を行うカリキュラムとなっている。

なお、学園では国内のみならず、インドやガーナ、イタリアなど海外からの留学生も在籍している。また、教員の体制について、DPでは六つのグループ（教科群）から1科目ずつ選択し、計6科目を取得することになるが、ルールとして2科目以上は英語でなければならないため、一般の学校に比べ教員数が多い状況となっている。現在、学園には50名を超える教員が在籍しているが、そのうち20名程度が海外出身である。

当該学園では学びの変革の目指すべきモデルとなることを学園のビジョンとして掲げており、これは学園設立の経緯とつながっている。平成26年に広島県教育委員会が、学習指導要領の改訂を待たずに主体的で対話的な学びを全県で実施することを主たる目的として学びの変革アクションプランを策定し、そのプランを先導する学校として当該学園が設立された。

本県では、グローバル社会を生きるために必要な意欲と能力を備えた人材育成が重要として、グローバルリーダーの育成や、国際バカロレア認定等の世界に通じる教育プログラムの調査等を実施している。

今回の調査では、学園の概要や国際バカロレアのプログラムに沿ったカリキュラム、学習内容などの話を伺ったほか、施設及び学習風景の見学を行った。

<主な質疑等>

- ・MYP及びDPの詳細及び大学入学時の活用について
- ・大学入学共通テストの対応について
- ・中学校入学時の英語の習熟度について
- ・学園設置場所の選定理由について
- ・外国人教員のリクルートについて

